

「驟雨」 岸田國士
しゅうう くにお

人物

朋子
ともこ

讓
ゆずる

恒子
つねこ

家政婦

時 六月の午後

所 洋風の客間を兼ねた書斎

朋子が割烹着を脱ぎながら、慌ただしくはいりて来る。その後から、家政婦が、何か云ひたそうにしていて来る。

朋子 やつよ、あれはあれでいいの。（割烹着を家政婦に渡し、机の前に坐る）あと、ハンケチだけでしょ！。暇を見で、しとじて頂戴。（がせないよ）ううね。あく、それから……その前に一寸お使ひに行つて来てくれない。

そのハ百姓に歯が出でるかどりが見て、もし、出でても良いのがなかつたり、駅の前まで行つてね。上等の一箱取つて来て……。

家政婦 おいくじ、びりみのを……。

朋子 いへへ、でもこゝへよ、虫このでねくあれや……。

（ペンを取り上げ、抽斗をせがしながら）あたし一寸、

端書を書くから、それもつこじに入れて来るのよ。さ、支度をして頂戴。（端書を書く）えへ……。

家政婦去る。長い間

朋子 あ、芳沢さん……、今朝来た端書を此処へ一寸

……。状差に差してあるのよ、繪端書よ。

家政婦 (端書を持つて来る)「これで御座いますか。

朋子 (見ずに受け取り)えへ、それ……。(見て)「れぢやないの。今朝来たのがあるでしょひ。(笑ひながら)いやね、これは……。(家政婦、これも笑ひながら去る)海岸の写真よ、蒲郡つて書いてある……。

家政婦、絵葉書を見ながら現る。

朋子 (引つたぐるやつに)ビリ……。えへ、「れよ。(間)——「二人とも、大層気に入り、四、五日逗留の予定……」か。

家政婦 は?

朋子 「つちの」と……。早く支度して頂戴。

家政婦去る。

朋子 (書きながら)「……それでは、今のつちのへり遊んでお置かなさい。田那様によろしく……」と。芳沢さん、さ、「れを持つて……。まだなの、支度は……? あ、そういう、お風呂を見といてね、行く前に……。もうお帰りになる時分だから……。

家政婦 (奥から)もうちやんと沸いてをります。

朋子 セツ。(聞)セツザヤ、なにしてるの、あんた。

家政婦 一寸帯をし直してをりますんで。

朋子 帯なんか、いべぢやないの、いちいち……。すぐ
そ」なんだもの……。

玄関の戸が開く音、朋子出で行く。間。

譲、現れる。機械的に机の上の絵葉書を取り上げ、
それを読む。

朋子 (続いて現れる)すぐお風呂にならじます?

譲、返事をしない。そのまま、奥に去る。

朋子、やゝ暗い表情。ぐつたりして椅子による。が、
すぐに気を取り直して起き上がる。

譲の声 おい。

朋子、黙つて奥にはひ。

長い間。

玄関で「御免なさい」という女の声。続いて、朋子の
「あひ……」といふも意外らしい叫び声。

朋子の声 もうしたの……。エアコン帰つて来たの。ひとり。(間)今朝見たわ。(間)え、四、五日遅れるつてふから、まだなかなかだと思つたの……。

(間)わかつ、まあお上うなれど。(間)つかひや今帰つたと。(間)ごへのよ、わんないし……。

朋子、続いて面を覗く。——面には、やく疲れてもるらし。

朋子 もうかしたゞぢやない。いやね、笑つばかしゆく……。

恒子 (腰かけながら)まあ、一寸休まして頂戴、今着いたといしな。

朋子 そいで……?

恒子 あの人?(意味ありげな微笑)今云ふから待つて。(溜息)ほんとお邪魔ぢやなくして……。

朋子 (詫かしげに)いや、あたし。そんなに笑ひばかしむわや……。つねちやん……。

恒子 セツカちね、姉さまは……。

朋子（途方に暮れて）可笑しなひとね……。どうした
つていふの。（妹の肩に手をかける）

恒子

朋子 泣いてたんぢや分らないぢやないの。あの人がどうかしたの。早くおつしゃいよ。

恒子 御免なセ。娘の顔を見たら、つぶ悲しくなつたの。(體)あたし、よほほんと黙つたとつたの。黙つて、辛抱しようかと思つたの……。だけど、もう黙田……。あんまりなんです……。あたし、あたし、うちへ帰るわ。(間)どうして、こやな。

朋子 どういやなの。

恒子 どうして……何もかも。

長い沈黙。

姉は、うなだれた妹の横顔を、まじまじと見入つてゐる。

朋子 嘘隣したんでしよう。

恒子 いへえ、そんな「じがやないの。（置）やつぱり、いけなかつたわ。

朋子 やつぱりいけないつて……前から何か……。

恒子 セウぢやないけど、せうぢ、行儀が悪いつてたでしよう。

朋子 そんな」と……？

恒子 そればかりぢやないの。えへ、つまつせうだけど、それが、ただ行儀が悪いぢやないの、あたし、つべりく愛想がつきたわ。

朋子 男つてみんなそつよ。

恒子 せうぢ、何時からちへ來た時、母さまの前で欠伸をしたつて、母さまがあとで怒つてたでしよう。あんじふ」とが、のべつ幕なしなの。それや、欠伸なんか、あたしの

前でしたつになるととも思やしないけど、他人(ひと)がゐる時、なぜか「おひる」を平仮でゐるよつたんじを平仮でゐるのよ。

朋子 ええな」と……。

恒子 いちじかはくないの、あそまり「ひるな」と……。汽車に乗つてからだつたらうだわ。いきなり、腰掛の上へ腰をのひた、ぐいぐい腰のよ。それが、発つた日からやつよ。

朋子 話もしないで……？

恒子 話なんかするもござすか。まるで向の為に旅行するんだかわからやしないわ。みんなが変な顔して見てる。ついでしょ、ハンケチもかけないで、口をあいて歸つてゐるやうですもの。

朋子 (笑ひをくらへ) やなんかで草臥れたんだわ。

恒子 やさしさ、あたしはひつ……。久しごりで、あんな帯を締めてや。

朋子 あなたは違ふわよ、女ぢやないの。

恒子 もう、姉ちゃん、そういうふうことを思ふようになつて、ひつひつするのね。

朋子 …。

恒子 それから宿屋についてからでも、女中なんかにばかり話しかけて——「冗談をひつたり……それや変な御飯をたべる時など、あたし、お給仕してゐる女中に恥かしくつて……。だつて、云ふ」ひとが下司げすなの、——ネーさん、東京だつた。どうも田舎ひさの女にしちや、様子がイキだと思つた——がうなの。女中の「ふが」とがいへわ。——田那も東京ですか——だつて。むつあると、変な手つきをして頭を搔く。——いや、逆襲は恐れ入るなあ——つて。どうぞひつて、いやね。

朋子 恒ちゃんも六ヶ敷むつかしいわね。どうじふじふも

ふよ、男つて……相手次第ではね。

恒子 兄さまもおひつて……?

朋子 えへ……れど、兄さまはひつだか……。

恒子　おひしゃりないわよ。やれからむとひびくどが
あるの。昨夜なの、それは……。——蒲郡つて、何県?
つい語じたつ——何県だと思ふつて聞きかくすの。姉ち
ま知つて、ひつしやる? 知りなじわねえ。だから、じぶ
加減に三重県? つい、ただ云つてみたの。やつした
ら、笑ひながら、——そじぎやや、えの辺にあるか、日本
の地図を書いて、田をつけて見ひつてはぶの。あたし、
そんな女学校の試験みたいな」と、いやだつて書ひてや
つた。やつしたり、紙と鉛筆とを出しつて、えりへしても
書けつてしまかないと。しまひに、日本地図も書けないと
かつて、それや、しつれ」「へ」ふの。だから、あんまり癪
でせつ。日本の地図ぐるる書けますねつて、そり、よく
書いたわね、あの通り書いてやつたの。やつあると、本
州だけしか書かないつむじ、——なんだ、それや胡瓜
かつて……(笑ひながら泣き出す)

朋子　え?

恒子 胡瓜かつて云つたわよ(また泣く)

朋子 (腹立たしさと、可笑さとを制しながら) 隨分、失礼ね。

- ◆本テキストは、インターネット上の「青空文庫」のテキストから抜粋し、一部加工したものです。